

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組及び今後の改善策	学校関係者記入欄	
								評価人数コメント	
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。		4:「自分の学力は向上していると思う」とアンケートで答えた生徒の割合が80%以上	2	「自分の学力は向上していると思う」とアンケートで答えた割合は、57.9%であった。教員による「わかる授業」「対話的で深い学び」を実践するよう教員の研修を深めた。また、土曜補習教室の実施回数を27回行い、生徒の学ぶ意欲の向上と、確かな学力の定着を目指した。57.9%というアンケート結果を踏まえ、より一層教員の授業力向上を目指すとともに、補習教室の参加生徒数の増加を目指す。また、「先生はわかりやすく指導してくれる」や「授業の内容は理解できる」と約9割が答えていることを踏まえ結果につなげていく。アンケート結果が65%以上になることを目標としている。	A	
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2~3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。		3:「自分の学力は向上していると思う」とアンケートで答えた生徒の割合が65%以上80%未満				B
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。		2:「自分の学力は向上していると思う」とアンケートで答えた生徒の割合が50%以上65%未満				C
		外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。		1:「自分の学力は向上していると思う」とアンケートで答えた生徒の割合が50%未満				D
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。						
		★教員が中心となって、土曜補習を年間27回実施する	4:「おおむね実施できた」と全教員が回答した。 3:80%以上実施した 2:60%以上実施した。 1:60%未満の実施						
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。		4:「挨拶等気をつけて実行している」とアンケートで答えた生徒の割合が85%以上	4	「あいさつや言葉遣いに気をつけている」のアンケート結果が89.3%であった。本校の生活指導のスローガンである「あ・じ・み」の実践と徹底。生徒自らの発信による、あいさつや身だしなみ、時間を守ることへの取り組みを行った。生徒自らが生活指導目標を守ろうとしていること、学校のきまりを守ろうとしていることを今後も大切に指導を継続していく。学校生活調査、いじめアンケートを継続し、組織的な対応を今後も実施し、生徒健全な学校生活を送ることができるように、保護者、地域、関係諸機関と連携しながら取り組んでいく。	A	
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。		3:「挨拶等気をつけて実行している」とアンケートで答えた生徒の割合が70%以上85%未満				B
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。		2:「挨拶等気をつけて実行している」とアンケートで答えた生徒の割合が55%以上70%未満				C
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。		1:「挨拶等気をつけて実行している」とアンケートで答えた生徒の割合が55%未満				D
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておこなった会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。						
		★「あ・じ・み」の徹底をする	4:全教員(全学級)で行った 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。						
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。		4:「自分の体力は向上していると思う」とアンケートで答えた生徒の割合が80%以上	3	「自分の体力は向上していると思う」と答えたアンケート結果は70.8%であった。新体力テストの結果を踏まえた目標決定(個人)や早寝・早起き・朝ごはん月間における基本的な生活習慣の確立や見直しを行った。今後は「食育」や生涯にわたるスポーツを楽しむ態度を育て、生徒一人一人が個に応じた目標を持ち、自分の体力の現状を把握し、自分の体力が向上したと感ずることができるようにする。	A	
		「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。		3:「自分の体力は向上していると思う」とアンケートで答えた生徒の割合が65%以上80%未満				B
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。		2:「自分の体力は向上していると思う」とアンケートで答えた生徒の割合が50%以上65%未満				C
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。		1:「自分の体力は向上していると思う」とアンケートで答えた生徒の割合が50%未満				D
		★マラソン大会の実施に向けて声掛けなどの喚起をする。	4:全教員・全学級で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満で行った。						
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。		4:「授業の内容は良く理解できる」とアンケートで答えた生徒の割合が83%以上	4	「授業の内容は理解できる」と答えたアンケート結果は85.3%であった。「わかる授業の実践」と主体的、対話的で深い学びの教員研修を実施し実践できるよう共通認識をもって取り組んだ。しかし「自分の学力は向上している」と感じている生徒が上記にもあるように57.9%という結果であることを踏まえ、理解度と学力向上自負度に関連するように試行錯誤していく。また、講師や支援員との連絡・相談をより一層深め、生徒の個々に応じた指導ができるようにする。	A	
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。		3:「授業の内容は良く理解できる」とアンケートで答えた生徒の割合が65%以上80%未満				B
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。		2:「授業の内容は良く理解できる」とアンケートで答えた生徒の割合が50%以上65%未満				C
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が月1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が月1回以上活用した。 1:60%未満であった。		1:「授業の内容は良く理解できる」とアンケートで答えた生徒の割合が50%未満				D
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2~3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。						
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2~3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。		4:「学校・学年だより等で学校の様子がよくわかる」とアンケートで答えた保護者・地域の方の割合が83%以上	4	保護者アンケートにおいて「学校・学年だより等で学校の様子がよくわかる」と回答した結果が91%であった。このことは毎月の学校便りや毎週の各学年便りの質の向上と内容の精選を行うとともに、保護者の意見欄を設け、それに答える機会を作ったことも影響している。今後はさらに内容を精選しテキストとともに、学校ホームページや掲示物等の充実も図る。	A	
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。		3:「学校・学年だより等で学校の様子がよくわかる」とアンケートで答えた保護者・地域の方の割合が65%以上80%未満				B
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期に2~3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。		2:「学校・学年だより等で学校の様子がよくわかる」とアンケートで答えた保護者・地域の方の割合が50%以上65%未満				C
					1:「学校・学年だより等で学校の様子がよくわかる」とアンケートで答えた保護者・地域の方の割合が50%未満				D

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。

○学校関係者評価の「評価」は、A: 日ごとの評価は適切である B: 日ごとの評価はおおむね適切である C: 日ごとの評価は適切ではない D: 評価は不明である の4点について、評価した人数を記載する